

## 中東時事アップデート 2019年5月5日

アミール・ツアルファティ

- GAZA CRISIS 緊迫するガザ -

<https://youtu.be/WucoVM5ZWDw>

シャローム。アミール・ツアルファティです。ロンドンのヒースローからライブを行っています。5番ターミナルで、ワシントンDCへのフライトを待っているところで、数時間をホテルの部屋で過ごしています。明日、ワシントンへ飛ぶ前に、少し眠ろうと思います。

ワシントンでは、30人の議員たちと議会の朝食会に出席して、そこでイスラエルと聖書について話をします。それについて、私は主催者にハッキリとお伝えしておきました。私は政治の話をするために行くのではなく、イスラエルを支援することの聖書的な重要性について話をしに行きます。ですから、とても興味深いことになると思います。どうぞ、お祈りください。それから3つのカンファレンスを経て、家に帰ります。

そのまえに、私たちが経験した信じがたい40時間について、お話をしたいと思います。現在もまだ続いているのですが、ハマスとイスラム聖戦派が、この40時間の間に700発以上のロケットを、イスラエルに向けて発射しました。みなさん、ある時点では、1分間に60発のロケットの集中砲火です。唯一、私に考えられるのは、これを見て、唯一、私に比べることができるのは、イラン、ロシア、北朝鮮といった大国が、非常に多くのロケットを一度に発射する時の、巨大な軍事的宣伝です。何百というロケットの集中砲火です。これは、どの国にとっても悪夢です。みなさん、それぞれご自分の国で想像してみてください。いろいろな国の方がいますから、あなたの国が、今、攻撃されていると想像してください。40時間、全部で700発以上のロケットの集中砲火です。それもアシュケロンやアシュドッド、その他の周辺都市のような人口の密集した大都市に向けられています。みなさん、どうか理解してみてください。このような条件の下で住むのが、どういうことか。

それから面白いのは、これらのロケットがイスラエルに向かって飛んでいる間、ハマスは、ガザで行われていたパーティーを見せていたのです。彼らは、誕生日や結婚式を祝っているのです。彼らは地球上でもっとも貧しいと考えられていますが、彼らはあちらで楽しんでいて、そのあいだ、私たちの国の人たちは、ロケットが命中する前のわずか5秒から2分半の間に、遮蔽物を求めて逃げなければなりません。イスラエルはこの48時間の間に、テロリストの標的に対して320の攻撃を行いました。320です。つまり、彼らがロケットを発射してきたため、私たちには、もちろん攻撃し返す正当な理由が得られます。イスラエルには、いくつもの標的があります。すべての国にあると思いますが。ただ、今回私たちは、彼らをものすごく驚かせました。説明しましょう。まず初めに…。

そのまえに、ちょっと止まって遡りましょう。どうして、この戦闘が始まったのか。明日から、ラマダンが始まります。ラマダンは、ムスリムの暦で一番大事な月で、丸一ヶ月、彼らは断食し、夜だけ食事をします。そしてこの月、晚餐に多くのお金を使います。毎晩、1日の終わりには犠牲の晚餐で、この月、彼らはさらに多くの時間を祈りにささげ、より専心します。ところで言うておきますが、断食している時は、さらに集中するものです。さらに集中力が増し、鋭くなります。ですから、彼らは夜だけ食事をして眠り、日中は、ずっと断食を続けます。通常、どの国でも祝日になると、豪華な晚餐や、そういったものに余分なお金がかかるものです。しかし、ガザでは多くの方が給料をもらっていません。ハマスが払っていませんから。ハマスはものすごく残酷に、文字通り、国民から奪い取っているのです。そして毎回、人々がハマスに敵対してデモを行おうとすると・・・――ガザの人たちは、何もイスラエルに敵対することはありません。彼らは、自分たちの支配者を知っています。ガザにいるのはイスラエルではなく、ハマスです。――そしてハマスは、その場で実弾を使って彼らを撃ち、その場で直ちに彼らを抑えつけます。そこで、何が起こったのかというと、ハマスが、「金をよこせ」と言っているのです。そして、今の今まで、これまではカタールが特別の使節を送っていたのです。文字通り、現金をいっぱい詰め込んだスーツケースを運んでいました。信じがたいことですが。「なぜ、彼らは現金がいるのか？」と思うでしょう。「どうして電子送金や他のやり方を、彼

らは好まないんだ？」テロリストは、常に現金を求めます。これを覚えておいてください。オバマがイランに支払った時、彼は何十億ドルというお金を現金で払いました。ですから、カタールがパレスチナに、いわゆる“給料”とか、“お小遣い”を払っていた時も、現金でした。

次にイスラエルは、ガザと国境を共にして、あちらには2百万人のガザの住民がいます。そして彼らは、あちらの絶望的な状況を理解しています。私たちは、ガザの人たちが少なくとも何かを得るために、資金があちらに流れ込むことを許していました。明らかにハマスは、とても貪欲になりました。与えれば与えるほど、さらに求めるものです。それが、彼らは期限内にお金を受け取っておらず、私たちからではありませんよ？カタールの代表からです。そこで、皆が彼を探している時、「どこにいるんだ?!」と。彼はワシントンDCにいるのです。彼は今、アメリカにいます。彼は言いました。「私に何をしてほしいんだ？私は今、忙しいんだ。私は今、健康上の問題で、ワシントンで治療を受けているんだ。だから、私が行くことを期待するな」そこで、ガザの人たちは言っています。「そうか…、カタールは現金を持って来てくれない。我々は資金がほしい。しかし、だれも我々に資金をくれない。どうやって世界の注目を集めようか…。それと、我々には資金が必要であることをカタールに知らせるために。ああ、簡単だ。イスラエルにロケットを発射しよう。これは常に効果的だ。いつでもなにかが必要な時には、イスラエルにロケットを発射するのが一番簡単だ」

次に、これを見てください。彼らがそれを行っていることは、皆が見ています。イスラエル人も、彼らがそれをするのを見ています。このために、彼らはネタニヤフに投票したのです。イスラエル人は知っていますから。革新的で凶器じみて発狂している左翼のリベラルたちが、パレスチナ人に、さらに多くの土地を与えようとしていることを。もし私たちが、さらに多くの場所から退去して彼らに土地を与えると、イスラエルの中心に、さらなるガザを作ることとなります。ガザは、パレスチナに国家を与えるべきではない事の最大の例なのです。なぜなら、ガザ自体は、ほぼ国家のようなもので、彼らの国境、彼らの政府があり、私たちはあちらにはいません。そして、彼ら自身の運営の仕方がマフィアのように、お金を求め、自分たちの身内にとっても残忍で、テロを用います。ですから理解してください。ガザは、パレスチナ国家が絶対にうまくいかない事の、おそらく最大の例でしょう。という事で何があったのかというと、イスラエル人はそれを見ていて、だからネタニヤフに投票したのです。しかし、見ているのはイスラエル人だけではありません。トランプ大統領も、これを見ていて、彼のスタッフも、これを見ています。ポンペオ長官は、つい先ほど言いました。「イスラエルは防衛する権利がある」40時間の間に700発のロケット攻撃を受けて、防衛しない国がありますか？ですから、基本的には、ハマスは世界最大の国を…、イスラエルとパレスチナ間の和平に対処する事に関しては、もっとも適切な国ですよ？そこを完全に納得させたのです。「“パレスチナ国家”は、解決にはなり得ない」そして、ハマスを武装させ続け、完全に武装解除しない解決策は、どれも絶対に平和をもたらす事も、あの地域に、永続する平和をもたらす事もできない。」

もうひとつ説明しますと、これは、彼らが資金が欲しかったところから始まりました。「よし。明日からラマダンが始まる。カタールの代表は、あちらにいない」彼らはロケットを発射し始め、イスラエルは決心します。「今回は、そうはさせない。前回、ほんの1ヶ月半前にお前たちは行ったが、我々は、今回はそうはさせない」そこでイスラエルは、4つの事を行いました。私たちはハマスを崩壊させたくなかったために、これまで行わなかった事です。なぜなら、これら2百万人のパレスチナ人をだれかが支配しなければならず、私たちは、絶対にあそこにはたくありませんから。そこで、通常、私たちは、いつもある時点でこうやってきたのです。「よし。あなたがたはこれを行い、私たちは私たちの攻撃を行った。では、停戦しよう」しかし今回、イスラエルは言いました。「今回は、あなたがたは少しやり過ぎだ。このことについて私たちは容認しない」そこで今、イスラエルは320の標的を攻撃しました。

私たちが何をしたか、説明しましょう。かなり長い間、行っていない事です。我々はドローンを使って、空から暗殺を始めました。私たちは、かなり質の高い諜報活動をしています。我々は正確に、司令官の居場所、だれが何を担っているのか、彼の乗っている車、車の色、車の置き場所を知っています。そこで、その車が路上に出た瞬間に車を攻撃し、その人物を殺害しました。今日、我々が殺害した人物は、ハマスとイスラム

聖戦派にイランからの全資金を送金していた者で、資金担当。彼はイランから、はるかテロ組織に資金を得る鍵となる人物でした。ですからみなさん、理解しておいてください。テロ組織は、常にテロを生み出し、テロには、常に現金が必要です。中東で最大のテロへの資金提供者は、イランです。そして資金は、すべてあの人物を通して流れていて、彼が、その資金を渡していたのです。彼らは、それを病院に渡したりしません。彼らは、それを給料のために渡しません。学校や幼稚園に渡しません。彼らは、それを人々に渡さず、さらなるロケット、トンネル、爆弾を作り、そして彼らは非常に多くのものを密輸します。

ところで、彼らが非常に精巧な武器を持っている事を、我々は知っています。彼らは、それらをどこに隠していると思いますか？ハマスの司令官たちは、全員、精巧な武器を彼らの自宅に隠しているのです。イスラエルが絶対に家を破壊しない事を、彼らは知っているのです。子どもや女性がいますから。みなさんがご存じかどうか分かりませんが、地球上の軍隊で、唯一イスラエルだけが、“地球上の軍隊で唯一”です。民間の建物を攻撃しようとする時に、我々はまず、「屋根をノック」します。小さな爆弾を送って、人々を驚かせます。何も、だれも、破壊、命中させません。それから我々は、建物から避難するように彼らに呼びかけます。そして2分後、私たちは建物を破壊します。我々は、彼らに呼びかけ、彼らを驚かせ、それから建物を攻撃するのです。中にテロリストがいて、武器があると分かっている時に、こんなことをする国は他にありません。しかし、我々はそれをします。

今日、我々は、いくつかの家を破壊しました。ハマスの指揮官たち、ハマスの指導者たちは、どこに住んでいると思いますか？「リマル」と呼ばれている、ガザの“ビバリーヒルズ”です。リマルは安全で、これまでだれも触れなかった事を、だれもが知っています。そこで彼らはそこに武器を置き、トンネルを掘り、そこに住む事を認めました。イスラエルがそこに触れない事を、彼らは知っていたから。それが今回、我々は触れたのです。“ガザのビバリーヒルズ”、リマルの住民は、そのことにとても動揺しています。彼らは、ガザのなかで非常に裕福な人たちです。みなさん、言っておきますが、ハマスとイスラム聖戦派は、片方ではマイクに向かって「我々は、ユダヤ人を滅ぼす！」とかなんとか言って、秘密の回線では、彼らは停戦を懇願していました。これがアラブ人たちのやり方です。彼らはいつも自分たちが非常に勇敢であるように見せかけて脅し、そして、秘密の回線で、彼らは停戦を懇願します。しかし今回、イスラエルは「NO」と言いました。「今回は、停戦はしない。今回は、お前たちが完全にインチキをやめるまで攻撃する」そこで我々は、精巧な武器が置かれていたこれらの司令官たちの家を攻撃し、本部も攻撃しました。イスラエルはまた、金曜日にハマスが仕掛けてきたサイバー攻撃を阻止しました。そして今日、我々は諜報本部とハマスのサイバー戦争の建物を完全に破壊しました。我々はドローンを使って空中から攻撃して、何人かを殺害しました。それからまた、内政部の事務所やその他の場所を破壊しました。みなさん、パレスチナは、自分たちがガザで少しやり過ぎた事を理解しています。そこで今、停戦を懇願していて、エジプトが今日の夜中までに停戦を仲介しようとしています。イスラエル時間では、今から15分後です。パレスチナは、それを心から待ち望んでいます。彼らは理解していますから。

現在、イスラエルのハイウェイを見ると、何百台もの戦車が、今、ガザに向かっていきます。何百台という装甲車が、今、ガザに突き進んでいます。歩兵部隊の旅団、ゴラン旅団、第7機甲旅団、メルカバ主力戦車。現在イスラエルは、パレスチナが基本的には彼らの“インチキ”をやめない場合に備えて、大規模な地上作戦の準備をしています。とはいえ、先ほど言ったとおり、イスラエル人たちは、どんどん納得し始めています。我々が撤退してパレスチナに与える事を含む解決策は、もはやあり得ない事を。ガザが、その例です。これから紹介される和平案は、私が思うに、もっと易しいものでしょう。パレスチナにとっては大惨事でしょうが。彼らにとっては、国家ではありませんから。しかし、パレスチナが国家を持つというのが、どういふことなのかを世界は理解するでしょう。それはロケットの集中砲火を意味し、それは常に、さらなる資金の“ゆすり”を意味します。今は、この馬鹿げた行動から、みんなが理解しています。昨日も言いましたが、パレスチナは、機会を逃す機会を絶対に逃しません。2004年に我々がガザを撤退した時に、彼らには、ガザをホテルやレストランの建ち並ぶ保養地にするための、世界中の資金があったのです。農業地のためのビニールハウスなども。文字通り、世界の銀行は、彼らに無制限の口座を与えたのです。イスラエルは、あちらにビニールハウスや私たちの家、農場を残しておいたのです。私たちは、彼らが良くなる事を望んでいたから。

彼らがうまくやれば、私たちも良くなりますから。我々も平穏で平和な国境を望んでいます。しかし、彼らが行った事といえば、ただ我々が彼らのために残したものを、すべて破壊しただけです。そして、かつてイスラエル人が住んでいた場所を、すべて、テロリストの駐留地にしました。それが彼らの知るすべて、彼らの行くすべてです。すべてがテロです。これはテロ組織です。だからトランプ大統領が・・・カードをテーブルに出して、こう言った大統領は彼が初めてです。「革命防衛隊、これはテロ組織だ」「イスラム同胞団、ムスリム同胞団、これはテロ組織だ」「ヒズボラはテロ組織だ」「ハマス、これはテロ組織だ」やっと彼らを名指しする者が現れたのです。やっと、現実としてこれを見る人が現れたのです。私は、この大統領には頭が下がりますよ。歴史上、これほど反対勢力に直面した大統領はいませんから。それも外部だけではありません。ほとんどが内部です。共謀は、ロシアとの共謀ではなく、実際には民主的に選ばれた大統領を倒そうとする民主党の共謀です。そうして彼を捜査にかけたり、ロシアとの共謀の申し立てなど、あれはただのナンセンスです。今こそ、彼はこういった人間を追求する時だと思います。あの馬鹿げた事を終わらせなければなりません。メディアが、どれだけこれを報道しないように努めているのかは分かりませんが、他の国でこのような事が明らかになった場合、そしてひとつの政党が民主的に選ばれた大統領を倒すために共謀したなら、何かとんでもない事が迫っているのが分かります。

ということで、みなさん、理解しておいてください。700発以上のロケット、320のテロリストの標的が破壊されました。残念ながらテロリストは、彼らが所有しているロシア製のレーザー誘導対戦車ミサイルを使用して、今日、4人のイスラエル人が死亡しました。昨日、第1の局面を死者を出さずに済んだのが、残念ながら今日の午前2時からアシュケロンの町とそれから他の都市、そしてアシュドッドでは2時間ほど前に始まって、イスラエル人が4人、その内の1人はアラブ人ですが、パレスチナによって殺害されました。この30~40時間の間に人々が命を落としたのを見て、本当に心が痛みます。ただ、ひとつ言える事は、700発のロケットが飛んで来て、人口の密集した地域に命中し、それで死者が4人だけなら、私はまだ、これを「奇蹟」と呼びます。私がこれを「奇蹟」と呼ぶのは、これら700発のロケットの能力を私が知っているからです。それからまた、少なくとも2つの場面で、彼らが、残忍なロシア製のレーザー誘導対戦車ミサイル“コルネット”を使用した事も知っています。それらが車両に命中しました。これらは、本当にとんでもない物です。みなさん、これが現在起こっている事です。彼らはラマダンのためにお金が欲しくて、ところが彼らにいつもお金を与えていたカタールの男、彼らにとってのサンタクローズが、今回は姿を見せませんでした。だから彼らは怒っていて、それでイスラエルを撃ったのです。これがテロリストの運営する中東です。テロ集団は、何かが必要で、何か欲しくて、なんであれ、彼らに鬱憤がたまれば、世界の注目を集めるためにロケットを撃つのです。もし、あなたがそれを望むなら、彼らに国家を与えればよい。もしそれを望まないなら、彼らと戦うのです。問題は、これらの者たちが国家ではないという事を、世界が理解しない事です。彼らは一度も国家であった事はありません。パレスチナ国家など、今まで一度も存在していません。彼らは国家として生きた事はありません。彼らは、彼らが我々を憎む以上に、互いを憎み合っています。

ところで、毎月だいたい1~2万人のガザ住民が、ガザを離れて、エジプト経由でヨーロッパに行っていると、我々は推測しています。ガザに住むのは、悲惨だからです。西岸地区に住むのも悲惨です。彼ら自身の政府が、彼ら自身にとって悲惨なのです。みなさんに言うておきますが、イスラエル人は離れないだけではなく、世界中からユダヤ人たちがイスラエルの地にやって来ています。ですから、私たちが内側から殺そうとした敵たちが、いま、去って行って、そして、かつては遠く離れていたユダヤ人たちが、今、世界中で激しい反ユダヤ主義を経験していて、故国に戻って来ているのです。私から見れば、これは預言の成就です。ユダヤ人たちの故国への帰還。そして、みなさんがご存じの通り、私はいつも言っていますが、イスラエルの最大の危険は、パレスチナでも、パレスチナ国家でもありません。最大の危険は、北からやって来る敵です。それは大国の巨大な軍隊であって、ハマスやイスラム聖戦派ではありません。私たちは、とっくの昔に彼らを滅ぼす事ができています。しかし、私たちはそれをしたくないのです。罪のないパレスチナ人が2百万人、ハマスのテロ政権の下で暮らしているのです。私たちは彼らをかawaiiそうに思っていますし、気の毒に思っています。だから我々は、できる限り一般市民を撃たず、テロリストだけを撃つように努めているのです。これらのテロリストたちは、今日の1つの件では、パレスチナのロケットの爆発です。彼ら自身のロケットが、彼ら自身の場所に落下して、妊婦とおなかの赤ちゃんが死亡。そしてパレスチナは、それをイスラエル

の責任にしました。彼らがロケットを撃ったのです。彼らにとっては、残念ながらそれは成功しませんでした。そしてついに、アラブのメディアが、もう騙されず、「あれはパレスチナのロケットだった」というイスラエルの主張を報道しました。パレスチナ人たちは、あれが彼らのロケットであった事を知っています。しかしカメラの前で、自分たちが攻撃されていると叫ぶのは簡単です。彼らは、自分たちが始めたというのを忘れてます。彼らがロケットを撃ち始めたのです。なのに、我々が何もしないとされたのでしょうか？そして我々が攻撃すると…。

ところで、2つあります。毎秒ごとにイスラエルを攻撃している国連人権委員会は、沈黙を保っています。パレスチナは、イスラエルの一般市民が密集している地域に撃っているのです。しかも彼らは、ガザの人口密集地域を利用して、そこから発射しています。ですから、彼らは二重の犯罪を犯しているのです。それが、国連人権委員会からは、いっさい何も聞こえてきません。「ユナイテッド・ナッシング」です。彼らの偽善が見えるでしょう。イスラエルが報復して、パレスチナが「殺される！」と言えば、直ちに人権委員会の緊急会が、イスラエルを非難します。馬鹿げているのにもほどがあります。一部の人を常に騙したり、たまに全員を騙す事はできるのかもしれませんが、しかし、皆を常に騙す事はできません。そろそろ世界は、見て見ぬふりをやめて、自分たちがパレスチナに騙されてきた事を理解しなければいけません。そろそろ前進しなければなりません。私は、トランプ大統領も彼のチームも理解したと思います。パレスチナに国家は与えず、武器やロケットのない、彼らの自治を、我々周辺の国家が保証しない限り、それから、彼らの周辺のアラブ諸国が、パレスチナの経済的、財政的な発展に協力しない限り、何も起こらない事を。そしてほかでもなく、トランプの和平協議は、それを提供します。パレスチナの経済的発展を助け、イスラエルがそれを容認して、生きる環境を創ります。そして2つの間で戦争になるケースは、もうありません。

みなさん、以上です。起こっている事をご理解いただければと思いましたが。すべてが最終的には、パレスチナに国家を持たせないように動く、私は思っています。それから、まさにこのために、ネタニヤフが再び権力を取り戻し、今も権力を持っているのだと私は信じています。なぜなら、イスラエルの左翼は狂ったリベラルで、彼らは、おとぎの国に住んでいます。彼らがどこに住んでいるのか分かりませんが、パレスチナにさらに多くの土地を与えれば、問題が解決すると考えているのです。「平和的な解決策」。「平和的な解決策」とは何ですか？彼らは、すべてが欲しいのです。彼らが求める唯一の平和解決策は、我々が出ていき、彼らがすべてを占領する事です。もしくは、我々の全人口を彼らに加え、最終的に内側から彼らが占領する事です。それはうまくいきません。以上です。彼らが他の場所に帰っていくなら、私たちは大歓迎です。

ただ、みなさんに言っておきたいのは、私はさっきイスラエルから出て来て、あちらでは大きな戦争が起こっているように見えますが、私は、とても確信していて、まったく恐れていません。現在、私の子どもの2人が軍に所属しています。私の娘が、今日、親なしの式典の中で、イスラエル軍に忠誠を誓い、ライフルと聖書を受け取りました。聖書は、私たちがここにいる理由です。ライフルは、私たちが自己防衛をするために使うかもしれませんが、しかし聖書は、証書です。なぜ、私たちはここにいるのか。パレスチナ人たちには、ここが彼らのものであると告げる聖書はありません。コーランでさえ、ここが彼らのものであるとは告げていません。コーランの中には、エルサレムはただの一度も出てきません。アラブ人たちは、彼らがここを勝ち取った西暦6-7世紀を除いては、この地を主張する事はできません。しかし歴史的には、深く掘ってゆくと硬貨や陶器、すべての物はユダヤ人たちがここに住んでいた時に遡ります。古代のヘブルです。ここでは古代のアラブは見つかりません。イスラエルの地に残っているイスラムは、どれも7世紀以降です。ですから、だれが先にいたのか？この土地は、だれのものなのか？ここに戻る事を約束されたのは、だれか？

1つお伝えします。皆が理解しない面白い事は、ユダヤ人たちは、ここに戻って来なくなかったのです。神が、彼らをここに連れ戻されたのです。神は、イスラエルに対する狂気じみた信じがたい憎しみを利用されたのです。それによって、ナチスが彼らを絶滅寸前にしましたが、そこから彼らを救い、最終的にはエゼキエル37章が告げる通り、連れ戻されたのです。そして言われました。「主であるわたしがこれを語る」(エゼキエル37章14節)「わたしは…あなたがたをその墓から引き上げて“イスラエル”の地に連れて行く」(エゼキエル37章12節)「パレスチナ」ではありません。そして、神は他のだれでもなく、「あなたがたの地」

と言われたのです。ですから、聖書が私たちの証書です。私たちの遺言書、私たちの権利書です。そのために、イスラエルの兵士たちは皆、国と軍隊に忠誠を誓う時、この2つが与えられるのです。ライフルと聖書。私の娘は、今日、私が飛行機に乗っている間に、ライフルと聖書を受け取りました。これは、両親は招待されない式典で、彼らの中で行われるため、私たちは写真だけを受け取りました。しかし、私は娘の事をとても誇りに思っています。また、私は過去と相続を忘れない国を、とても誇りに思います。過去を忘れる国に、未来はありません。パレスチナは、ここに過去はありません。したがって、私はここに彼らの未来があるようには見えないのです。

ところで、勘違いしてはいけません。パレスチナと一日中戦っていたいイスラエル人は、ひとりもいません。我々が彼らに求めているのは、ただ、放っておいて欲しいだけです。戦わず、穏やかに暮らしたいだけ。みなさん、私は昨日も言いましたが、パレスチナ人が武器を置けば、もう、戦争はありません。イスラエルが武器を置けば、もう、イスラエルはありません。基本的には、そういうことです。だから、我々は強い軍隊を持つ国なのです。我々は、他のだれかの土地を奪っているのではなく、自分たちの土地が欲しいだけです。だから我々の軍隊は「イスラエル国防軍/IDF」と呼ばれるのです。「イスラエル征服軍」ではありません。私は、「占領地」という言葉には賛成しません。私たちは、自分のものではない土地は、いっさい“占領”していません。以前も、パレスチナの国ではありませんでした。世界の歴史上、パレスチナ国家など、いっさい存在していません。だから、我々はだれからも“占領”していません。ヨルダンが我々から取り、我々は、ヨルダンから取り戻したのです。エジプトが我々から取り、我々がエジプトから取り戻しました。我々は、パレスチナからは取っていません。そもそも、パレスチナは所有していませんから。我々が彼らから取ったという、この全くの嘘、欺きは、古い嘘ですよ。彼らは、一度も国家を持った事がないのですから。我々が彼らから取り、彼らを取り戻したい国など、一度も存在していません。彼らは欲しいだけで、“取り戻す”ではありません。彼らは、ただ欲しくて、世界は彼らに与えたいのです。私が思うに、今日、私たちが目にした暴力のひとつひとつは、彼らをそこから、どんどん、どんどん、どんどん遠ざけているだけです。それを、私たちは目にしました。

という事で、みなさんが状況を理解する助けになった事を望みます。また、起こっている事をみなさんが理解された事を望みます。イスラエルが亡き兵士たちを記念している日と、我々の独立記念日に、彼らは絶対にロケットを撃つべきではないと、私は強く思います。彼らがそれを行うと、ガザのハマスが終わりますから。彼らはそれを知っていると思いますし、彼らは、一線を越えた事を分かっていると思います。それから、彼らは停戦を懇願していると思いますし、今日の0時、明日の早朝に、この暴力のサイクルが終わったとしても、私は驚きません。

ご視聴いただき、ありがとうございます。ログインしてくださって、感謝します。みなさんが、少し理解された事を願います。またなにか明確にするべきことがありましたら、喜んで行きます。明日は飛行機でワシントンDCに向かい、そのあと、議員の方々とお会いしますので、どうか、お祈りいただければと思います。それからカナダで、“Waiting For His Return”カンファレンスです。それからParkerで、もうひとつあって、テネシーでもメッセージをします。ですから、みなさんのお祈りが本当に必要です。また、自宅に残している私の家族と、世界中にいる私のチームのためにもお祈りください。私たちはたくさんの攻撃に直面していて、いつもと同様に、みなさんのお祈りが頼りです。

では、アロンの祝福で終わらしましょう。（ヘブル語の次に英語で、同じお祈りをしています）

『主があなたを祝福し、あなたを守られますように。

主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。

主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。』（民数記6章24節から26節）

彼が私たちの平安、彼は平和の主、平和の君です。中東にも、イスラエルにも、エルサレムにも、平和の君が来られるまで、平和はありません。主イエス。来てください。

イエスの御名によって祈ります。  
アーメン！

ありがとうございます。 God bless you !

ロンドンのヒースロー空港5番ターミナルより、シャローム！  
次にお話するのは、アメリカかカナダからです。

God bless You ! シャローム！  
さようなら。

---

メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル  
<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2019.05.07(Tue)

---